

平成 21 年 1 月 8 日

各 位

会 社 名 ミクロン精密株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 白田 啓  
 ( J A S D A Q ・ コード 6159 )  
 問合せ先  
 役職・氏名 専務取締役管理部長 榊原 憲二  
 電 話 (023) - 688 - 8111 (代表)

投資有価証券評価損の計上、為替差損の計上および  
 平成 20 年 11 月期通期業績予想との差異並びに  
 期末配当予想の修正に関するお知らせ

この度、当社において、下記のとおり投資有価証券評価損を特別損失に、為替差損を営業外費用に計上する必要が生じたので、その概要をお知らせするとともに、当該損失による影響を踏まえ、平成20年11月期（平成19年12月1日～平成20年11月30日）の業績予想と配当予想について、下記のとおり修正いたします。

記

1. 平成20年11月期末の投資有価証券評価損の計上

「その他有価証券」に区分される保有有価証券のうち、時価が著しく下落し、その回復があると認められないものについて、平成20年11月期末において減損処理による投資有価証券評価損の計上を見込んでおりますのでお知らせいたします。

(A) 平成 20 年 11 月期末の投資有価証券評価損の総額	285 百万円
(B) 平成 19 年 11 月期 純資産額 (A / B × 1 0 0)	6,005 百万円 (4.7%)
(C) 平成 19 年 11 月期 経常利益額 (A / C × 1 0 0)	931 百万円 (30.6%)
(D) 平成 19 年 11 月期 当期純利益額 (A / D × 1 0 0) (注) 2	353 百万円 (80.7%)

(注) 1 当社の決算期（事業年度の末日）は、11月30日です。

2 最近終了した事業年度の当期純利益が10億円未満のため、当期純利益額は最近5事業年度の平均としています。

## 2. 平成20年11月期末の為替差損（営業外費用）の計上

平成20年11月期末の為替レートは、米ドル95.56円、ユーロ123.21円となりましたが、前期末の為替レートは、米ドル110.14円、ユーロ162.63でありました。これらの急激な為替変動により、外貨建資産等による為替差損（営業外費用）295百万円の計上を見込んでおりますのでお知らせいたします。

## 3. 平成20年11月期 業績予想の差異と配当予想の修正

### (1) 連結 平成20年11月期 連結業績予想の差異と配当予想の修正

(平成19年12月1日～平成20年11月30日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益	1株当たり期末配当金
前回予想 (A)	6,940	1,150	1,253	695	283円45銭	42円00銭
今回修正 (B)	6,224	948	718	△92	△37円86銭	40円00銭
増減額 (B-A)	△716	△202	△535	△787	△321円31銭	△2円00銭
増減率	△10.3%	△17.6%	△42.7%	—	—	△4.8%
[ご参考] 前期実績 (平成19年11月)	6,222	832	939	485	191円75銭	40円00銭

### (2) 修正理由

#### ・業績予想の差異

売上高につきましては、製品の売上計上基準を検収基準としていることから、高精度化・高効率化製品を求める顧客の検収条件の一部が未達成のため、売上が翌期以降に繰越となる案件が見込まれます。また、主需要先である自動車関連業界をはじめとした、経済状況の急変に伴う設備投資の抑制による、顧客の都合による納入延期案件等の影響があったことにより、前回予想を7億16百万円下回り62億24百万円となる見込みであります。なお、これらの案件は、翌期に売上計上の予定であります。

営業利益につきましては、前述の売上高の減少等により前回予想を2億2百万円下回り9億48百万円となる見込みであります。

経常利益につきましては、営業利益の減少に加え、急激な為替の変動による為替差損295百万円を営業外費用に計上することにより、前回予想を5億35百万円下回り7億18百万円となる見込みであります。

また、当期純利益につきましては、上記経常利益の減少に加え、前述の投資有価証券評価損（特別損失）285百万円を計上すること等により、前回予想を7億87百万円下回り92百万円の損失の計上となる見込みであります。

#### ・配当予想の修正

配当予想につきましては、当社は、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定配当の継続に努力しております。しかしながら、平成20年11月期の業績が計画を下回る見込みとなったことを踏まえ、前期同様、1株当たり40円00銭の普通配当を実施する予定であります。

なお、平成21年11月期の連結業績予想につきましては、確定次第、直ちに公表いたしますが、主需要先である自動車関連業界をはじめ、設備投資は大幅抑制傾向が続くものと思われることから、売上高の大幅な減少を余儀なくされる見込みであります。

## (3) 個別 平成20年11月期 前期実績との差異

(平成19年12月1日～平成20年11月30日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期 純利益
前期実績(平成19年11月)(A)	5,878	836	931	458	180円91銭
今期予想(B)	5,929	972	754	△79	△32円35銭
増減額(B-A)	50	136	△177	△537	△213円26銭
増減率	0.9%	16.3%	△19.1%	—	—

(注) 差異理由につきましては、上記3.(2)修正理由と同様であります。

(注) 業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以 上